

休暇を利用して母校訪問

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木 3陸佐）は5月20日（木）、今春、陸上自衛隊女性自衛官教育隊に入隊した隊員の神奈川県立氷取沢高等学校への母校訪問支援を実施した。

今回の母校訪問は隊員が休暇で帰省中だと知った広報官が母校訪問を依頼したところ快諾し、急きよ実現したものだ。学校では昼休み時間を利用して在校中お世話になった恩師2名と、自衛隊の受験を視野に入れている生徒2名に対して、自衛隊での生活の様子を楽しそうに語るとともに、生徒から「受験勉強のコツを教えてください」との質問にも丁寧にアドバイスをした。

明るく何事にも前向きに捉えて話す姿に先生方は「卒業して僅か2ヶ月だけでも成長したな」と驚いていた。

今回は急な依頼のため制服の準備ができなかったが、先生方は「次回は是非制服姿を見せてほしい。また成長した姿を見られるのがすごく楽しみだ」と語り、次の訪問も待ち遠しそうだった。

上大岡募集案内所では、「今後も隊員や学校との連携を深め、多くの生徒や教職員に自衛隊の魅力伝えていきたい」としている。



左奥から仲内渚隊員、先生2名、生徒2名

母校にて自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 林1陸尉）は、5月21日、今年度入隊した清水自衛官候補生（当時）の神奈川県立新羽高等学校への母校訪問支援を実施した。

今回の母校訪問は、休暇を利用して、以前お世話になった先生方へのお礼の言葉と現況の報告をしたいと本人が自発的に出張所へ相談し、実現したものである。

学校では、担任や進路指導の教員と懇談し、教員からは「制服が似合っていて凛々しい」や「体力面でついていけるのか？」など、隊員からは「進路担当に自衛隊を紹介してもらえて良かった」や「体力面は段階的に訓練していくので心配ありません」などの声が聞かれた。

横浜出張所は、「今後も本制度を活用して、積極的に母校訪問を支援し、募集環境の拡充と学校の自衛隊に対する理解を深めていきたい」としている。



進路担当と



お世話になった先生と



敬礼